



令和8年2月15日 第902号

一般財団法人日本遺族会 千代田区千代田五丁目六番五号 九段南一丁目六番五号 九段会館テラス四階 電話 03-3261-5521 00160-6-25389 電報掛 0110 発行人 盛川英治 編集 毎月1回15日発行 定価 毎月1部130円(税込)

日本遺族会は国の礎となられた英霊顕彰をはじめ、戦没者の遺族の福祉の増進、慰藉救済の道を開くと共に、道義の昂揚、品性の涵養に努め、世界の恒久平和の確立に寄与することを目的とする。

# 令和8年度事業計画纏まる 昭和100年語り部主体に

1月29日、常務理事会が開催され、令和8年度活動方針・事業計画が示された。昭和100年施策に沿った各種企画展を展開し「戦争の記憶の伝承」を普遍的課題と提起し、応えうる団体として社会に奉仕する姿勢を前面に打ち出す。学校、学生からのニーズに応える内容、形態を推進し、学校講話は本年度の2倍を目指し、更なる普及、拡大を図る。

冒頭、挨拶に立った水落敏栄会長は、令和8年度最重要予算「平和の語り部事業」の厳しい折衝を明かした。有志によるボランティア活動を事業とし、国の補助を受け、活動、内容は地域の自主性が反



常務理事会で挨拶する水落敏栄会長 = 1月29日、九段会館テラスで

映される一方、ばらつきが指摘されていた。そこで、本部は全国で重ねられた語り部を分析。多数の報道、何より学校・児童・生徒から寄せられた感想から遺族会だからできる内容を示した。これらが評価され、更なる期待が評議され、

につなげたこと、7年度補正を含め、概算要求額となる2・6億円が確保できたと説明した。改めて各支部への感謝を示し、語り部事業を通じた社会貢献、組織継承の推進を呼びかけた。主な審議事項は9議題。最も時間が割かれたのは、令和8年度活動方針・事業計画で語り部事業を通じた組織継承策と官民挙げて取組まれる昭和100年施策に沿った語り部事業の具体的展開である。昨年度に続き、組織の拡充強化を第一義と位置付け、強化策に沿った後継者の育成、語り部事業を通じた継承の具体策が示された。

遺族会の語り部の貴重性「体験者が語り、次世代・児童生徒と共に考える」に沿った対話を通して双方方向性を広げる。○自治体・学校へのPR 今年度の学校講話の後押しとなった自治体・学校への通知を再依頼。昨年末に令和8年度の事業周知依頼が厚労省より文科省へ依頼され、各都道府県教育委員会、援護担当へ発出された。

青年部長会 事務局長会 女性部長会 各会議を開催 本会は、1月24日から28日の5日間、青年部幹事会・部長会、事務局長幹事会・局長会、女性部幹事会・部長会を相次いで開催した。

特に事業計画には、昭和100年記念事業として全国での朗読劇の実施、慰霊碑を活用した青年部による語り部研修会、学校講話等で活用する語り部動画制作に向けた女性部研修会、平和の語り部国際親善交流として台湾、パラオでの戦跡慰霊巡拝及び相互交流事業など、さまざまな企画

## 令和8年度 恩給改定 1・9%引上げ

1月23日、厚生労働省は、総務省発表の「令和7年平均の全国消費者物価指数」を踏まえて、令和8年度の年金額を前年度から1・9%引き上げると発表した。

そして同日、年金額改定に伴い総務省は、令和8年度の恩給年額を、法律の規定に基づき、1・9%引上げを公表した。恩給年額の引上げ（ベースアップ）は昨年からの3年連続となった。

なお、恩給年額は、毎年度、国民年金の改定率により改定されているが、国民年金が引き下げられる場合であっても、恩給は国家補償の性格を尊重する趣旨から引き下げられない仕組みとなっている。（2面「公務扶助料」等年額一覧表参照）

## 昭和100年企画 「昭和の日」語り部事業 朗読劇のお知らせ

日本遺族会は令和8年度に昭和100年企画として、47都道府県で「昭和の日」に関連するイベントを実施する。 本会は朗読劇を予定。 佐賀県遺族会西田富子会長考案の朗読劇は青年部が取り組む形態として創作され、体験者と次世代による上演は大きな反響を得た。本部は体験者、次世代に学生が共演し、内容を振り返る学習を組合せ体験型+対話型の新形態として昨年のブロック語り部大会で提案。全国で普及されつつある。 本部はより児童・生徒が自分事として取り組める遺族会の語り部として、自治体、学校、学生へのお披露目を兼ねた企画とする。日時：令和8年4月29日 日時：令和8年4月29日 が提案され、承認された。



学校講話で展開される朗読劇 = 熊本県で

## 全国の教育委員会等へ 通知、文科省より

12月26日文科科学省(以後、文科省)は、各都道府県教育委員会等に令和8年度語り部事業の積極的活用に向けた通知を发出した。 国の補助事業に新設された令和6年度は学校での講話回数が増え、令和7年度当初に文科科学省、厚生労働相に水落会長が面会。学校での活用を要望したことを受け、同年5月厚生労働省より文科省へ協力依頼が出され、同月、文科

声なき声 週日、毎日新聞朝刊の「みんなの広場」に埼玉県の高校生が寄せた「平和学習をもっと能動的に」という投稿について本部に情報提供があった▼修学旅行で訪れた広島での平和学習で、戦争の凄惨さを知り、「このような悲劇は二度と生まれない」と思ったが、それ以上の考えが湧かないという十代の思いに衝撃を受けた▼これは学校教育の中で生徒たちが戦争の悲惨さ、平和の尊さを自分ごととして学ぶことがいかに困難であるかを示しており、関心はあっても戦争について話し合う場もなく、どのように向き合えばいいのか分らない自己に対するもどかしさを率直に表している▼だからこそ、生徒は、単純に「戦争はダメ」と教え込まれたままではなく、「争わないために何をすべきか」を能動的に思考すべきであると痛切に訴えているのだから▼講話型、対話型、体験型と多様な形態を用いて実施している遺族会の平和の語り部は、文科科学省の推奨もあり、学校側からの講師派遣依頼も年々増加している▼「争いの絶えない世界のありさまを、SNSを通じて身近に感じるようになった生徒にとって、何より戦没者遺族の生の声を聞くことは、自分が知らなかった戦争の現実を直に学ぶ、今の平和が当たり前なことではない」と主体的に考える機会になるに違いない。(M)

# 平和の語り部事業大幅増額

## 高まるニーズに試練の一年

政府は12月26日の閣議で令和8年度予算を決定した。本会関係では今後の主事業として、本部支部一丸となつて要望を重ねた「平和の語り部事業」について、令和7年度補正分を含め概算要求額となる2.6億円が計上された。全国での学校講話への評価と更なる期待の表れと推測。高まるニーズに確実に応えられるか試練の一年となる。

日本遺族会は、遺族会員の等々、厚労省より各都道府県援護担当へ本事業の積極的活用が通知され、学校からの依頼が大幅に増え、昨年(1991回)比約3倍の650回を数えるまでに。(令和8年1月時点)

6月上旬、遺児慰霊友好親善事業洋上慰霊を実施。初の同行取材を受け、海に鎮まる30万の御霊への思いが連日報道され、中学生を含む次世代付添者に参加者全員での語り部研修で語り継ぐ意識が醸成された。

同月下旬に全国語り部大会、遺族協議員協議会(以後、遺協)、代表者会議を開催し、報道への広報、地元選出の自民党国会議員、財務省、厚労省、総務省等、関係省庁に要望を展開。8月厚労省は財務省に対し、概算要求額2.6億円を計上した。各支部では学校に加えて、公民館、コミュニティセンターなど節目を意識した夏休み向けの講話、パネル展、座談会等が実施された。加えて自治体の追悼式に関連した語り部事業が全国の市町村で実施され、地方紙に連日報道された。

9月10月にかけて、ブロック語り部大会を全国5都市で開催。遺族会の多様な形態(地域に根差した講話型、朗読劇など体験型)を自治体、報道に広報すると共に、語り部の育成研修の場とした。

た。すべての大会で取材を受け、新聞、テレビ、WEBの報道に加え、大學生による動画制作のテーマに使用された。

10月には初となる国際親善交流を実施。日本人慰霊に尽力した台湾、パラオから代表者を招聘し、国内の慰霊施設、慰霊碑、記憶の継承についての意見交換を重ね、訪問地静岡県で報道された。

11月末遺協、12月全国戦没者遺族大会を開催。先だって高市早苗総理大臣に要望。本事業の趣旨、遺族会が実施する意義に理解を示された。大会後、自民党国会議員、関係省庁に要望を展開。翌日には女性部語り部研修会を開催。より多くの児童・生徒へ分かりやすい講話を伝えるため、語り部育成の加速化と講話の一助となる動画制作が決定された。

### 令和8年度政府予算における戦没者遺族処遇改善項目

1. 遺族年金等(別表)
  2. 戦没者等の遺族に対する特別弔慰金等の支給(事務費) 11億円、R7補正1000万円
  3. 戦没者遺骨収集事業等の推進 34億円、R7補正2億3000万円
  4. 戦没者遺族相談員の謝金 1人当たり年額2万6000円
- 他南方地域、旧ソ連地域  
③法人運営経費 1億8000万円  
④遺骨の鑑定 8億円、R7補正1億1000万円  
⑤遺骨・遺留品の伝達 4100万円、R7補正1100万円(うち、戦没者等の遺留品の返還に伴う調査一式の経費1700万円)
- 実施 2億1000万円  
②慰霊巡拝 1億1000万円  
③政府建立慰霊碑の補修等 7100万円  
④平和の語り部事業 1億9000万円、R7補正7100万円  
⑤民間慰霊碑の移設等 2800万円、R7補正3600万円
- ①海外民間建立慰霊碑の移設等 1700万円  
②国内民間建立慰霊碑の移設等 1000万円  
④昭和館 4億4000万円、R7補正5億8000万円
5. 戦没者遺族相談員の謝金 1人当たり年額2万6000円

### 公務扶助料等年額一覧表

令和8年1月作成 (単位:円)

種類	現在額(年額)	令和8年4月より(年額)	増額分(年額)	対象遺族
公務扶助料	2,058,300	2,097,500	39,200	軍人(少佐まで同額)
特例扶助料	1,646,500	1,677,900	31,400	軍人(少将まで同額)
扶養加給	75,400	76,800	1,400	軍人
先順位遺族年金	2,058,300	2,097,500	39,200	軍属、一部軍人
同遺族給与金	2,058,300	2,097,500	39,200	準軍属
同特例遺族年金	1,646,500	1,677,900	31,400	軍属、一部軍人
同特例遺族給与金	1,646,500	1,677,900	31,400	準軍属

(注)上記の年額表は、日本遺族会事務局による試算で、多少異動することもあるの、ご了承下さい。

### 遺骨収集 ギルバート諸島を相次いで実施

### 25柱の検体を採取し帰還

日本戦没者遺骨収集推進協会主催の遺骨収集推進

遣を相次いで実施し、ギルバート諸島は11月15日から12月2日、本会から2人、ギルバート諸島では1月14日から28日の期間で実施し、1人が参加協力した。



戦争墓地内で遺骨を収容する団員=11月20日、ギルバート諸島・チッタゴンで(写真提供=日本戦没者遺骨収集推進協会)

派遣団は、平成22年から19柱を回収し、11日間かけて19柱すべてを回収し、丁寧に洗骨して検体を採取した。

現地では追悼式を行い、すべての作業を終えた派遣団は11月30日、回収した遺骨を支援いただいた在ギルバート諸島日本国大使館に仮安置し、採取した検体を持って12月2日に帰還した。

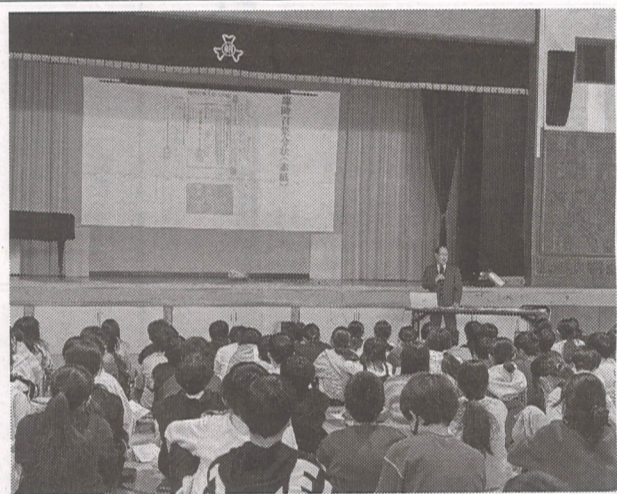
検体は厚生労働省へ引渡され、所属集団(人種)を判定するDNA分析が行われる。

派遣団は、令和6年度

回収した遺骨は、在キリバス日本国大使館に仮安置した。今後DNA鑑定により日本人戦没者と特定されれば、現地で焼骨し本邦に帰還される。

**本会事業  
参加者の皆様へ**

本会の事業に参加するに当たり、得た個人情報(「個人情報保護法」の定めにより、厳重に扱います。日本遺族会の個人情報保護方針につきましてはホームページを参照するか、本会にお問い合わせください。



学校での講話の様子がNHK全国ニュースで報道された(埼玉県)

基本となる学校等、児童・生徒への講話を確実に実施し、内容の充実を図ると共に、永続的に実施するため、次世代の意識を醸成する遺児慰霊友好親善事業に代わる次世代の交流事業を企画。常務理事 霊碑等整理事業、昭和館

**2・7北方領土の日**  
返還要求全国大会を開催

2月7日は「北方領土の日」、北方領土問題の解決を強く求める令和8年北方領土返還要求全国大会が、都内の国立オリンピック記念青少年総合センターで開催された。大会に出席した高市首相は、ロシアとの北方領土問題が解決されず平和条約が締結されていないことに「誠に悔しく残念で、政府として重く受け止めている」と語り、ロシアによるウクライナ侵略を受け「厳しい状況に

の施設整備費等も増額された。

節目の年を超え、戦争の記憶の継承を社会的課題と提起し、けん引する団体と認められるよう昭和100年施策に沿った各種企画を実施する。

ある」として、「北方四島の帰属の問題を解決し、平和条約を締結する政府の方針に変わりはなし」と述べた。

また、中断の北方四島の返還では、「人道的な問題であり日ロ関係の最優先事項の一つ」と位置づけ、ロシア側に再開を働きかける考えを示した。

# の部 講話者育成全国各地で 次年度学校講話依頼急増

戦没者遺族の記憶と地域の歴史を次世代と共に児童・生徒に伝える「遺族会の語り部」は全国から依頼を受け実施している。学校での講話は昨年比3倍の約650回を数え（8年1月時点）、既に8年度の依頼は47校、6400人の聴講予定となっている。これら学校からの依頼に確実に応えるため、各地で行われる技術向上、新たな語り部の育成の研修を紹介したい。

## ○島根県11月30日

斐川町遺族会は、「恒久平和を祈念する集い・平和の語り部研修会」を開催。同会では、平成21年より先の大戦が開戦した12月8日に戦争の悲惨さ、平和の尊さを考える同集いを開催し、今回は語り部研修も実施。一昨年から青年部の参加を促すため、11月末の最終日曜もしくは12月の第1日曜に開催とした。

め、市議会より多くの議員が出席し、遺族会が目指す語り部事業の意義が説明された。県遺族連合会副会長を務める斐川町原晴昌会長は、長年にわたり地元小中学校で語り部活動を重ねてきた。一昨年、講話が縁で地元コミュニティセンターから夏休みの児童・生徒向けの語り部の依頼を受け、講話や遺品、手紙、遺骨収集の写真を展示する企画を成功させた。最終8年となった昨年8月には、青年部と共催で平和の語り部事業を実施。遺児・孫・ひ孫3

世代で追悼式に参列。遺品、玉音放送の書面、遺骨収集、慰霊巡拝の写真の展示会には多くの来場者を迎えた。原氏は「地域から開始し、積み重ねることがやがて大きな輪となり語り部を普及させると語り1月には市内慰霊塔巡りを実施し、次世代への伝承を図る予定。○福井県12月13日

平和の語り部大会を開催。7月に続き、年度内2回目の開催となった。冒頭「遺族であること誇りとし不屈の気概をもつて会の発展への寄与を誓う「遺族会綱領」を唱和した。

挨拶に立った酒井秀和会長は親会・女性部・青年部それぞれが語り部を展開。今日は各部が協力した朗読劇を披露したと語った。小林勇夫副会長から県内の語り部事業の現状報告。7月から小中高30校で語り部。県内5ブロックの代表で対応。児童・生徒の熱心な質問は共有したい。更に自分事として戦争と平和を考えてもらえよう遺族会にしか



地元コミュニティセンターで実施した語り部事業＝島根県で

出来ない記憶の伝承を模索しようと呼び掛けた。次世代奥野治樹副会長も出席。本部からは全国的な先進県として同県の広報と育成の両輪の展開が説明された。当初から体験者として次世代が共に学び、語り部として学校や公民館での講話を実施。追悼式、遺族大会など既存の慰霊行事で、講話を披露。大きく報道され、事業の周知と会員へ意識が醸成され、年度内2回目の語り部大会となった。次に西山式子さんによる紙芝居「いくさの少年



青年部発案で劇中に効果音など加えた朗読劇を披露＝12月13日、福井県で



親会・女性部・青年部それぞれの語り部に敬意を表す酒井秀和会長＝12月13日、福井県で

振られ、出演者の臨場感あるセリフ回しに、涙する人も。最後に「ふるさと」を合唱。終わりに進行を務めた平田修次副会長は、7月の語り部大会により語り部になりたいという機運が高まり本日2回目の開催となった。今日の大会から更に語り部がうまれることを期待したいと語った。大会は取材を受け、テレビ、新聞により報道され反響を得た。○埼玉県12月18日

朝霞市立朝霞第三小学校で語り部講話。6年生全クラスへの語り部は2コマ、体育館で行われた。講話者は福居一夫埼玉県



福居ブロックアドバイザーの講話に質問する児童＝12月18日、朝霞第三小学校で

期」の上演。本作は県内で戦中・戦後を過ごした少年の視点で描かれた実話を絵本、紙芝居としたもの。臨場感あふれる語り口に息をのんだ。メイン企画は坂井ブ

ロックによる朗読劇。佐賀県発の朗読劇は、全国で多様に展開されており、当市では、青年部の発案でオリジナルの音響が制作された。当時を連想させる出征旗、衣服などが集められ、原作には

なかつた召集令状を配達する兵士係、兵士を見送る村長とその妻も配役され、出征兵士の見送りに会場での日の丸の小旗が

振られ、出演者の臨場感あるセリフ回しに、涙する人も。最後に「ふるさと」を合唱。

終わりに進行を務めた平田修次副会長は、7月の語り部大会により語り部になりたいという機運が高まり本日2回目の開催となった。今日の大会から更に語り部がうまれることを期待したいと語った。大会は取材を受け、テレビ、新聞により報道され反響を得た。

## ミャンマー小学校修繕募金のお礼

日本遺族会がミャンマーの現地に寄贈した小学校3校の老朽化が進んでいることから、その修繕費用を集めるために開設した「ミャンマー小学校修繕募金」にご賛同いただいた左記の方に心よりお礼申し上げます。

賛同者名(敬称略) カタカナ名は銀行振込、漢字名は現金書留等) 豊蔵信夫、市川喜代江、稲木実、常岡梅男、正金郎、岡本勝弘、金粕武、原嶋宏文、金井勲、室原幸子、鷲見孝、岸本壽津代、落合レヒ子、前田賢、増田正和、田中良洋、橋爪清、浅井昭幸、川村京子、熊谷ひろ子、中林清、

栗飯原明生、藤井待子、秋山和夫、前尾幸子、ウチダトシヒコ、ヒガシカワ(以上、1月1日から1月末日まで)

皆様からいただいた賛助金は、本会が実施している英霊顕彰、戦没者遺族の処遇改善、戦没者遺骨収集事業等のさまざまな遺族会活動に利用させていただきます。ありがとうございました。

ミャンマー(旧ビルマ)小学校修繕募金のお願い  
日本遺族会ではミャンマー(旧ビルマ)に建設贈呈した小学校の修繕費用の寄付を募っています。本会は平成11年度から3年計画で、北オカラップ第14小学校(ヤンゴン郊外)、カドウィンチャン小学校(ペギー)、バンドウターズー小学校(アキヤブ)の3校を竣工、贈呈しましたが、建設から20数年が経過し、校舎等の老朽化が進んでいます。2021年の軍事クーデター以降、ミャンマー国内の政情が不安定なため渡航が困難とされているなか、外務省大洋州局、在ミャンマー日本国大使館とも協議を重ねた結果、本年3月に「戦没者遺児による慰霊友好親善事業」でミャンマー地域の実施が決定しました。そして、治安が安定して、入城が可能な北オカラップ第14小学校とカドウィンチャン小学校の2校を訪問する予定です。小学校を訪問した際には、学校側の要望を聞き取り、現状を把握したうえで、壊れた校舎の修復など募った寄付金の使途、今後の支援について慎重に検討します。皆様のご理解、ご協力をお願いいたします。

銀行名：三井住友銀行 神田支店 口座番号：当座預金 1015126  
口座名：一般財団法人 日本遺族会(ザイ) ニホンソクカイ

日本遺族会では、戦没者の英霊顕彰や遺族支援、慰霊友好親善事業、遺骨収集帰還等各種事業の活動のために賛助金を募っております。本会の活動の趣旨にご理解を賜り何卒ご賛同いただけますようお願い申し上げます。

郵便振替 0013002694929  
みずほ銀行 九段支店 普通預金 00800930

※口座名は…一般財団法人日本遺族会(ザイ) ニホンソクカイ

遺族連合会副会長(本部ブロックアドバイザー)の父、家族と撮った写真を通し、戦中の生活、浅草で東京大空襲に被災し、母の実家(志木市)へ転居。戦後の労苦を伝えた。2コマ目では、父の戦没地硫黄島での遺骨収集、沖縄での慰霊の話

平和の語り部

# 第11回定期講話会

## 次世代・学生と語る遺骨収集

戦争体験者の遺族と次世代が共に記憶の伝承に取組む遺族会の語り部の普及、拡大のための本部主催第11回定期講話会のテーマは「遺骨収集」。座談会では、遺児に加え、次世代、学生の遺骨収集体験者がそれぞれの視点から遺骨収集を伝え、会場は活発な意見交換が重ねられた。本講話会は取材を受け記事は即日配信された。

1月11日に開催された第11回定期講話会では、冒頭本部より戦没者の遺骨収集の推進に関する法律(以後、遺骨収集推進法)の成立について説明がなされた。遺族代表の参議院議員 進のための法律を要望。

### 元気で軍務を勵んでみます

陸軍兵長 山下 唯志

昭和十五年十月三十日  
中華民国江西省張家湾附近にて戦死  
京都府京都市中京区出身 二十四歳

拜啓 此の間のお便り、皆々達者で居ると聞いて安心致しました。それに銃後の護りを固める為め国防婦人となつて元氣でお働き下さいませとの事嬉しく存じます。今私達ハ歌の文句ではないが、益々元氣で軍務を勵んでみますから、他事乍ら御安心下さい。

就寝前の僅かな時間を割愛してお便りを書いて居ます。(中略)此の間に弾丸が除けてくれました。そして微り傷一つ負ひませんでした。これもお母様お父様が毎日神詣りをして武運長久を祈つて下さるお陰かと思へば思わず涙がこぼれます。

人生行路に於て戰場ほど大きな立派な修養道場はありません。身心共に鍛へ上げられ體力も膽力もつき、今では男子としての立派な格がついて来たやうに思ひます。(中略)今日十一月三日ハ明治節で朝からシトシトといやな雨がふりましたがすぐにやみ、晴の日は祝ふかの如く此度大陸にも野菊が咲きほこつてゐます。お元氣で私の事は心配なさらずお過ごし下さい。

父上様 母上様

唯志

【令和八年二月靖国神社社頭掲示】

愛しきものへ

自民党政務調査会内に特別委員会を設置、委員長として要綱を取りまとめ、与野党への説明を経て、国会審議へ。平成28年の施行までの苦勞が説明された。

次に吉澤登志江茨城県遺族連合会常務理事による講話。過去2回の遺骨収集事業の体験を披露した。硫黄島では、這つて入らなければ進めないような狭い壕の中は、蒸気が噴出し、奥に進むほど息苦しく、数分交代で土砂を運びだした。また、連日の過酷な収容の中で、壕入り口付近に焼かれた跡が残る壕の階段で、両手を上に伸ばした状態の遺骨を目の当たりにし、戦争の残酷さをまざまざと感じ、この現実を伝えたいと講話に立つ

た思いを語った。また事務局より昨年6月の洋上慰霊で捧げた追悼文が紹介された。八十路を過ぎた母が「お父さんは南の島にいるのかしら」と夫の帰りを信じて半世紀以上待ち続けている事実を直視し、涙が止まらなかつたと伝えられた。戦争がなければもうと穏やかな幸せがあつた。二度と戦争を繰り返してはならないと語気を強めた。

### 慰霊大行進参加者募集

#### 沖縄で語り部研修会を実施

日本遺族会は、沖縄戦を祈願することである。終結の日である6月23日に、沖縄県遺族連合会と共催で実施する「沖縄平和祈願慰霊大行進」への参加者を募集している。

この事業の目的は、先の大戦で多くの尊い命が失われた沖縄戦を振り返り、砲弾降りしきる中、苦難の撤退を余儀なくされた戦没者が辿った道(ひめゆりの塔から摩文仁の丘まで)を行進し、平和を祈願することである。今回は「平和の語り部事業」の研修会も予定しており、全国から組織の後継者である孫、ひ孫等の青年部世代が積極的に参加し、次世代へ戦争の記憶を伝承する語り部の活動者としての意識を高める機会として是非参加いただきたい。

参加申込については、在住する各都道府県遺族会事務局へ。

### 九段短歌

村田 信昌

演習のひとときの間に安らぎて椰子にもたるる鉄かぶとの父  
青森県 田中 恭子

父戦死追うがごとくに母病死遺児ら三人戦後を生き抜く  
埼玉県 金井 文男  
滋賀県 雨森 貴子

没地に行つて持ち帰った石をお墓に入れた。遺骨収集の体験を語り部として伝えたい(遺児)。祖父の遺骨を自宅に迎えるのが自身の役目。DNA鑑定の体制強化、遺族も登録を(次世代)。大学に入って初めて参加。悲しみの深い事業と念頭に。遺族の思いを聞く貴重な機会になった。自身も更に次世代に伝える立場に。発信を強化。自身も参加してみたい(学生)。本講話会は取材を受け、全国の新聞、WEBに配信された大きな反響を得た。記憶を伝承する重責を新たに、講話会は各種テーマで継続する。次回2月15日加西市研修、次々回3月ミヤンマー慰霊友好親善事業参加者で開催予定。次年度の予定は次号に掲載。

### 九段短歌 作品募集

日本遺族通信の九段短歌では、読者の皆様の作品を募集しています。

◎作品には必ず住所、氏名を明記してください。お寄せいただいた作品の返却はいたしませんので、予めご了承ください。また、青年部皆様の作品も歓迎します。



孫、ひ孫の次世代とともに終焉の地摩文仁へ向かう行進団(令和5年6月23日撮影)



学生が遺骨収集の体験を語る=1月11日、九段会館テラスで

### 支援金手渡す

#### OBONソサエティ

日本遺族会が厚生労働省から委託されている戦没者等の遺品返還に伴う調査事業では、アメリカ・オレゴン州のNPPO法人OBONソサエティと業務提携して、一件でも多くの寄せ書きの丸まった支援金48万8000円が、手渡された。

ソサエティを支援するため、本紙等で支援金を募っており、これまでに総額152万8000円が寄せられた。そして、1月16日に本会会議室で、水落会長から、来日したOBONソサエティ共同代表の敬子・ジーク氏に、令和6年から7年にかけて集まった支援金48万8000円が、手渡された。皆様のご理解、ご賛同に心より感謝申し上げます。引き続き同事業へのご協力をお願いいたします。